

# マーケティング・ツールとしての知的財産



担当  
講師

## ・講座コーディネーター

杉光 一成(すぎみつ かずなり)

金沢工業大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授・弁理士

## ・担当講師

第1回 杉光 一成(すぎみつ かずなり)

金沢工業大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授・弁理士

第2回 山内 明(やまうち あきら)

三井物産戦略研究所 知的財産室 室長 弁理士

第3回 小林 誠(こばやし まこと)

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社  
知的財産グループ シニアヴァイスプレジデント

実施  
日程

第1回: 6月28日(水) 18:30~21:45 弁理士会館  
第2回: 7月11日(火) 18:30~21:45 弁理士会館  
第3回: 7月19日(水) 18:30~21:45 弁理士会館

受講料

全3回: 20,000円(税込・テキスト代込)

概要  
ねらい



マーケティング・ツールとしての知的財産(権利のみならず特許情報等も含む。以下「知財」)の可能性・有用性について基礎から具体例を含めた応用まで解説する。

既に先進企業では、公開されている特許情報をSWOT分析の強み・弱みの定量的把握に用いており、5フォース分析においても新規参入や代替品の脅威の判断等において有効に活用できるが、従来、知財は注意すべき「法律」であり「権利」というコンプライアンス視点が大きかったように思われる。

しかし、知財権は独占排他権であることから企業にとっては自社の市場への他社参入を抑制し、場合によっては他社を市場から排除できるなど「市場の維持」に深く関係する機能を有しているため、特に中長期的視点において価格競争に陥らないための企業経営、特にマーケティングのツールとして見ることが可能である。

そこで、本講座では、マーケティングの目的とされている「市場の維持・拡大及び新市場の創造」に関し、知財がその「手段」として活用できる可能性と有用性について、第1回では、主としてマーケティングの基礎知識とそれらと知的財産の関係を解説し、第2回では知財情報戦略に基づく特許マーケティングの理論概要と実践事例を解説し、第3回では、マーケティングの視点から見た知的財産の活用について事例を交えて解説する。講座の中でグループ・ディスカッションも取り入れることで弁理士業務において、企業に対して知的財産に関連する有益なアドバイスを提供できるようになる実践的知見を身につけることを狙いとする。

(注)特許調査(あるいはそのスキル)を主とする講座ではありません。

<p>形式及び内容 (予定)</p>	<p><b>講義およびグループ討議形式</b></p> <p><b>第1回：マーケティング・ツールとしての知的財産(概論)</b></p> <p>講師:杉光 一成氏(金沢工業大学大学院教授・弁理士)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① マーケティングの基礎知識</li> <li>② マーケティングと知的財産の関係</li> <li>③ 「技術」のブランド化</li> </ol> <p><b>第2回：知財情報戦略に基づく特許マーケティングの理論概要と実践事例</b></p> <p>講師:山内 明氏</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 特許マーケティングの概要(知財情報戦略を基礎として)</li> <li>② 特許マーケティングの実践事例</li> <li>③ 特許マーケティング 2.0 の概要と実践事例</li> </ol> <p><b>第3回：マーケティングの視点から見た知的財産の活用</b></p> <p>講師:小林 誠氏</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 特許情報を用いた新規事業開発テーマの検討</li> <li>② 市場拡大を目的とした知的財産の活用</li> <li>③ デザイン・ドリブン・イノベーションと知的財産権の複合的活用</li> </ol>
<p>参考図書</p>	<p>“Intellectual Property as a Marketing Tool”(論文)</p> <p><a href="http://www.ipaj.org/bulletin/pdfs/JIPAJ13-3PDF/13-3_p004-014.pdf">http://www.ipaj.org/bulletin/pdfs/JIPAJ13-3PDF/13-3_p004-014.pdf</a></p> <p>マーケティングツールとしての知的財産(ディスカッションペーパー)</p> <p><a href="http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/iam/outcomes/pdf/papers_141021.pdf">http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/iam/outcomes/pdf/papers_141021.pdf</a></p>
<p>講師 略歴</p>	<p>◆杉光 一成氏(金沢工業大学大学院教授・弁理士)</p>  <p>東京大学大学院(法学)修士課程修了、東北大学大学院(工学)博士後期課程修了。PhD。電機メーカー知的財産部、特許事務所、経済産業省「産業競争力と知的財産を考える研究会」委員等を経て、現職に至る。保有資格として、弁理士、英検1級、主な著書(編著・共著含)として「理系のための法学入門」、「知的財産管理&amp;戦略ハンドブック」などがある。日本工業所有権法学会正会員、著作権法学会正会員、日本知財学会正会員、日本マーケティング学会正会員、日本弁理士会会員。社会的貢献として、経済産業省委託事業(平成17年、平成18年)「知財人材のスキルの明確化に関する調査研究」リーダーとして「知財人材スキル標準」を開発、参議院・経済産業委員会調査室・客員研究員(平成18年9月～平成19年3月)、知的財産教育協会・専務理事(平成17年～現任)、東京大学政策ビジョン研究センター・客員研究員(シニア・リサーチチャー)(現任)等がある。2008年6月には(財)機械産業記念事業財団の第1回知的財産学術奨励賞において会長大賞、2009年4月には経済産業省から「知財功労賞」(特許庁長官表彰)をそれぞれ受賞。</p> <p>◆山内 明氏(三井物産戦略研究所 知的財産室 室長 弁理士)</p>  <p>セイコー電子工業(株)(現セイコーインスツル(株))、酒井国際特許事務所、(株)物産 IP を経て、現職に至る。投資先候補の知財 DD、優良投資先・アライアンス先の候補探索、新規用途開発(通称:特許マーケティング)等の知財コンサルティングを実践中。主な著書・寄稿として、「知財情報戦略 自動運転編(日経 BP 社、2016年7月上梓)」、「知財情報解析を活用した新たな知財価値評価手法の紹介(日本知的財産協会 知財管理 2016年4月号)」、「特許から考える 失敗しない研究開発(日経 BP 社 日経ものづくり 2012年7～9月号)」などがある。日本弁理士会継続研修(認定外部機関)講師としては、2009年より知財情報戦略講座を担当し、コンサルティング実務で培った独自開発手法を提唱中。直近の開発テーマは、特許マーケティング 2.0(特許マーケティングの進化・改良)</p>

◆小林 誠氏(デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社 知的財産グループ シニアヴァイスプレジデント)



国際特許事務所において、特許出願、先行技術調査、ベンチャー支援、特許戦略コンサルティング業務を経て、現職に至る。知的財産が重要となる製造業および ICT 業界全般のクロスボーダーの M&A アドバイザリー、ライセンス契約アドバイザー、JV 組成アドバイザー、知的財産に着目したビジネスデューデリジェンス、事業価値・株式価値・知的財産価値評価、知的財産戦略策定支援、知的財産取引支援、組織再編に伴う知的財産管理体制構築支援、グローバル知的財産管理体制構築支援、技術起点の新規事業開発支援、知的財産情報調査・解析などの業務を専門としている。金沢工業大学大学院イノベーション・マネジメント研究科客員教授、東京工業大学キャリアアップ MOT 知的財産戦略コース講師、特許庁委託事業「地方創生のための事業プロデューサー派遣事業(平成 28~30 年度)」の統括事業プロデューサーを現任している。主な著書(編著・共著含)として『知財戦略のススメ』、『知的財産デューデリジェンスの実務(第 3 版)』、『勝ち残るための M&A 戦略』などがある。東京大学大学院修士課程短期特別修了、早稲田大学大学院修士課程修了、東京大学大学院博士後期課程単位取得後退学